

**FACTS &
FIGURES**

バンダイナムコグループのCSRマネジメント

バンダイナムコグループのCSR方針



各SBU・関連事業会社で、重点取り組みテーマを掲げ、事業を通してグループCSR重要項目の深掘を行う。

バンダイナムコグループのCSRマネジメント

バンダイナムコグループでは、「夢・遊び・感動」の提供を実現するため、グループを横断するCSRの取り組みとして、CSRコンセプト・3つの社会的責任を果たすことを盛り込んだ基本方針「CSRへの取り組み」を定め、CSRマネジメントを推進しています。また、2010年度からはCSR活動のさらなる実効性向上のため「バンダイナムコグループCSR重要項目」を策定し、より具体的に、特に重点的に取り組む必要があるCSRテーマについて、各SBUの特性を活かしながらの活動を開始しています。

バンダイナムコグループのCSR推進体制

決議事項・報告事項

バンダイナムコホールディングス
取締役会（適宜）

報告事項・検討事項

グループ経営会議（毎月）

グループCSR委員会（半期）

グループCSR部会（四半期）

各社CSRプロジェクト

バンダイナムコグループのCSR推進体制

2010年度より、グループCSR委員会のメンバーを各SBU主幹会社の社長とし、スピード感をもって決断し、事業と一体となるCSR体制を強化しています。また、2011年度からは、グループCSR委員会の下部組織であったグループ環境部会とグループ社会貢献部会を統合し、環境・社会貢献に限らず、CSR重要項目に沿った取り組みの進捗管理・情報共有を行うグループCSR部会を設置、さらに各社CSRプロジェクトにて、各社の特性を活かし、より具体的な各SBUの取り組みを推進しています。

バンダイナムコグループCSR重要項目の進捗

バンダイナムコグループCSR重要項目の推進プロセス



バンダイナムコグループCSR重要項目の推進について

「バンダイナムコグループCSR重要項目」は、ステークホルダーとバンダイナムコグループにとって「最も重要なCSR項目とは何か」についての、有識者へのヒアリングや外部調査レポートを基に策定しました。2010年度は、その重要項目に沿って各SBU・関連事業会社で重点的に取り組むテーマを掲げ、事業を通じた具体的な活動項目を決定、活動を行いました。

各SBU・関連事業会社の重点取り組みテーマ一覧

注：CSR重要項目に該当する事業領域がない場合は空欄となっています。

CSR重要項目	トイホビー SBU	コンテンツSBU	アミューズメント施設SBU	関連事業会社*
商品・サービスの安全と衛生	安全・安心の追求	安全・安心の追求	健全な売り場の醸成・青少年の社会学習への取り組み	安全運転・個人情報取扱体制強化・化学物質管理
環境配慮	Act. Now for Future Smiles (笑顔のためにできること)	環境配慮と省エネ	環境負荷係数の徹底的な把握・具体的エネルギー削減方法の実施	エコドライブ・事業所の省エネ
コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー	コンテンツ・商品における倫理表現の統制	コンテンツの適切な言語表現の制定	—	—
サプライチェーン管理	バンダイにおける労働規範監査 (C.O.C. 監査)	サプライヤーとの連携	—	アートプレストにおける労働規範監査 (C.O.C. 監査)

* (株)バンダイロジバル・(株)ロジバルエクスプレス・(株)アートプレスト

各SBUの重点取り組みテーマ 2010年度進捗報告

トイホビー SBU

CSR重要項目	トイホビー	2010年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	安全・安心の追求	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ISO10002自主適合宣言の実施 ▶ “製品安全を考える展示会”の実施 ▶ 製品事故対応研修および訓練の実施 ▶ バイセル製品ガイドライン制定 ▶ SBU横断の情報交換会を毎月実施
環境配慮	Act. Now for Future Smiles (笑顔のためにできること)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Act. Now for Future Smiles (環境活動事例集) 発刊 ▶ 外部セミナーでバンダイの活動を講演 ▶ トイホビーSBU環境プロジェクトを偶数月開催 ▶ 改正省エネ法特定事業者の対応実施
コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー	コンテンツ・商品における倫理表現の統制	<ul style="list-style-type: none"> ▶ デザインレビューにて、倫理表現を監視 ▶ バンダイのキャラクターコンテンツ、商品における倫理表現の自主規制継続
サプライチェーン管理	バンダイにおける労働規範監査 (C.O.C. 監査)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ バンダイにて海外すべての最終梱包工場での労働規範監査を実施 ▶ 他企業のサプライヤーカンファレンスでバンダイC.O.C.について講演 ▶ 日本財団CANPANにてバンダイC.O.C.について講演

コンテンツSBU

CSR重要項目	コンテンツ	2010年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	安全・安心の追求	<ul style="list-style-type: none"> ▶ バンダイナムコゲームスのグリーン調達基準を充実 これに伴い社員向けセミナーを実施 ▶ モノづくり基準の深化と拡張とSBU波及、グリーン調達基準の変更と連動し改定
環境配慮	環境配慮と省エネ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境配慮ガイドラインの設計及び環境ラベルの実施 ガイドラインの設計は進行中 ▶ 過剰包材削減等による原材料の省資源化 レンタル向けなどパッケージを使用しない商品には各社仕様の簡易パッケージで納品 ▶ CO₂削減の各種活動 各建物でウォームビズほか省エネ活動実施中
コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー	コンテンツの適切な言語表現の制定	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各種コンテンツの適切な言語表現に関する統一基準の制定 バンダイナムコゲームスで1月にキックオフのための準備を開始
サプライチェーン管理	サプライヤーとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 信頼されるサプライチェーンの確立 (グリーン調達基準・C.O.C. 監査) サプライヤー向けグリーン調達セミナーと専用HPのリニューアル ▶ 映像業界独自のカーボンカルキュレーター創出とサプライヤー連携 業界スタンダードのカーボンカルキュレーター (製造過程のみ/運搬は含まない) が完成

アミューズメント施設SBU

CSR重要項目	アミューズメント施設	2010年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	健全な売り場の醸成・青少年の社会学習への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ▶「AOU青少年アドバイザー」資格取得推進 資格取得者60名増 目標達成(合計306名) 在籍店舗171店舗(36店舗増) 資格者在籍店パネルの掲示 ▶企業訪問・職業体験学習の受入 小中高校生の受入実績数 <ul style="list-style-type: none"> ・ナムコ本社企業訪問： 9校57名 ・花やしき職場体験： 7校33名、&芸能活動 ・プレジャーキャスト職場体験： 1回、幼稚園訪問4園
環境配慮	環境負荷係数の徹底的な把握・具体的エネルギー削減方法の実施	<ul style="list-style-type: none"> ▶SBU内の環境負荷データの正確な収集 母体オーナーとの交渉により、実数値の提供を受け、実数把握率90%(ナムコ)目標達成 ▶エネルギー削減施策の実施 クレーンゲーム機のLED化と減灯実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ナムコ、プレジャーキャスト合計： 4,484台 ・CO₂削減 ▲1,343t-CO₂、▲6,300万円/年 ▶省エネ法、地球温暖化対策条例対応実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ナムコ、プレジャーキャスト、ナンジャタウン(都対応済)

関連事業会社

CSR重要項目	関連事業	2010年度活動報告
商品・サービスの安全と衛生	【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】安全運転 【アートプレスト】個人情報取扱体制強化・化学物質管理	【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】 <ul style="list-style-type: none"> ▶事業用車両自責事故数9件 ▶重大事故の発生は無し 【アートプレスト】 <ul style="list-style-type: none"> ▶Pマーク更新手続きを実施 ▶全社員に個人情報研修を実施 ▶商材の化学物質検査の徹底 ※重金属、着色、フタル、その他の検査対応 ▶グリーン調達検査及び指定業者の確立
環境配慮	【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】エコドライブ 【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】 【アートプレスト】事業所の省エネ	【バンダイロジパル・ロジパルエクスプレス】 <ul style="list-style-type: none"> ▶燃費はほぼ前年と同等 ▶エコドライブコンテスト参加 事業所はすべて受賞 ▶電気使用量前年比微増 【アートプレスト】 <ul style="list-style-type: none"> ▶駒形事務所にLED照明を設置 ▶駒形事務所にて、消費電力の少ない空調機へ交換
サプライチェーン管理	【アートプレスト】労働規範監査(C.O.C.監査)	【アートプレスト】 <ul style="list-style-type: none"> ▶C.O.C.監査 3社実施 ※現在は正対策案提出中 ▶監査に向けた事前講習の実施 ▶監査項目を立会いにて確認

人事関連情報

各SBU主幹会社計（バンダイ・バンダイナムコゲームス・ナムコ）

雇用形態別従業員数

（名）

		2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
正社員	男性	2,761	2,829	2,999	2,450
	女性	663	695	761	1,183
準社員	男性	1,516	1,364	1,331	1,208
	女性	1,097	986	857	770
契約社員	男性	232	168	137	40
	女性	59	53	52	39
臨時雇用者	男性	1,061	837	663	569
	女性	1,005	798	664	619
合計	男性	5,570	5,198	5,130	4,267
	女性	2,824	2,532	2,334	2,611
	合計	8,394	7,730	7,464	6,878

女性管理職数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
女性管理職数（名）	55	50	71	74
全社員に占める割合	0.7%	0.6%	1.0%	1.1%

新卒採用数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
新卒採用数（名）	90	105	105	88
（うち女性採用数）（名）	33	38	38	30
うち女性比率	36.7%	36.2%	36.2%	34.1%

平均データ

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
平均勤続年数（年）	7.1	7.5	8.3	8.2
平均年齢（歳）	36.8	37.2	38.0	38.0
平均年間給与（千円）	6,994	6,630	6,127	5,882

育児・介護休業取得者数

（名）

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
育児休業取得者数	62	81	105	94
うち男性取得者数	1	5	1	4
介護休職取得者数	4	3	2	1
うち男性取得者数	1	1	0	0

年次有給休暇取得率

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
年次有給休暇取得率	43.0%	63.7%	59.5%	60.4%

労災件数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
労災件数（件）	84	94	64	63

障がい者雇用率（グループ合計）

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
障がい者雇用率	1.83%	1.74%	1.79%	1.88%

ワークライフバランス実現のための制度一覧（特に法定以上のもの）

名称	概要
育児休業	1歳6ヶ月に達する年の3月31日まで取得可能 満2歳に達する日まで取得可能
育児援助措置	小学校3年生終了まで、時短勤務や時間外労働・深夜労働の免除が利用可能
“グループ出産祝金（2011年10月～グループ出産・子育て支援金）”	3人目以降に誕生した子1人につき100万円を支給 （育児休業休暇を1週間以上取得した場合、3人目以降に誕生した子1人につき200万円を支給）
妻出産休暇	男性社員は、妻の出産時に5日間の特別有給休暇
フレックスタイム制度	所定労働時間を1日ではなく月で定めます
ファミリーサポート休暇	1年に最大2日間まで利用可能な休暇（子の入学式、卒園式、一親等内誕生日、本人結婚記念日等）

※導入度合いは各社によって異なります。

環境関連情報

SBU別CO₂排出量と削減率

(t-CO₂)

	排出量			削減率	
	2008年度	2009年度	2010年度	2009年度比	2008年度比
トイホビー SBU	10,723	10,449	10,156	▲3%	▲5%
コンテンツSBU	9,420	8,457	7,911	▲6%	▲16%
アミューズメント施設 SBU	88,947	80,137	68,944	▲14%	▲22%
関連事業会社	1,778	1,694	1,560	▲8%	▲12%
バンダイナムコホールディングス	165	248	227	▲8%	+38%
合計	111,033	100,985	88,798	▲12%	▲20%

※バンダイナムコホールディングスは入居拠点を変更したため、実績に変化が生じています。

環境マネジメント対象範囲

▶バンダイナムコグループ全社

環境パフォーマンスデータ収集範囲

▶バンダイナムコグループ連結対象会社(持分法適用会社は除く)

管理基準

▶総排出量

2010年度環境パフォーマンスデータ一覧

測定項目			単位	年度	バンダイナムコホールディングス	トイホビー SBU	コンテンツSBU	アミューズメント施設 SBU	関連事業会社	合計	
燃料	揮発油(ガソリン)	営業車使用分	kl	2009	0	76	80	113	11	280	
				2010	0	56	64	103	36	259	
		上記以外*	kl	2009	0	10	12	37	0	59	
				2010	0	49	11	0	3	63	
	灯油*		kl	2009	0	0	1	16	10	27	
				2010	0	0	1	5	12	18	
	軽油	営業車使用分(ディーゼル車)	kl	2009	0	43	0	0	0	858	901
				2010	0	61	0	0	0	919	980
		上記以外*	kl	2009	0	40	0	0	0	0	40
				2010	0	43	0	0	0	2	45
	A重油*		kl	2009	0	32	0	0	0	0	32
				2010	0	4	0	0	0	0	4
石油ガス	液化石油ガス(LPG)	営業車使用分以外*	t	2009	0	4	0	25	0	29	
				2010	0	5	0	12	0	17	
可燃性天然ガス	その他可燃性天然ガス	営業車使用分	m ³	2009	0	0	0	0	73,690	73,690	
				2010	0	0	0	0	69,179	69,179	
		上記以外*	m ³	2009	0	0	15,924	0	0	15,924	
				2010	0	0	15,924	0	0	15,924	
水	用水使用量		m ³	2009	924	69,798	46,826	260,805	8,062	386,415	
				2010	1,053	56,596	49,096	171,512	7,784	286,041	
	温泉水汲み上げ量		m ³	2009	0	266	0	257,911	0	258,177	
				2010	0	604	0	80,467	0	81,071	
	排水量		m ³	2009	693	70,348	37,518	516,209	8,062	632,830	
				2010	743	57,623	36,092	252,050	7,784	354,292	
電気*			kWh	2009	481,024	20,442,431	15,124,195	163,183,306	3,928,705	203,159,661	
				2010	467,031	20,776,157	15,073,603	150,677,515	3,955,120	190,949,426	
その他の燃料	都市ガス*		m ³	2009	13,141	53,294	536,260	2,080,616	202	2,683,513	
				2010	10,615	48,801	447,070	1,567,805	193	2,074,481	
	蒸気(産業用)*		MJ	2009	0	0	0	6,425,464	0	6,425,464	
				2010	0	0	0	0	0	0	
	蒸気(産業用除く)*		MJ	2009	0	0	0	1,909,561	0	1,909,561	
				2010	0	0	0	1,909,561	0	1,909,561	
温水*		J	2009	0	0	323,603	4	0	323,607		
			2010	0	0	294,066	14	0	294,080		
冷水*		MJ	2009	221,419	0	2,173,143	8,289,554	0	10,684,116		
			2010	220,409	0	2,349,959	8,288,683	0	10,859,051		
廃棄物	一般廃棄物		kg	2009	2,246	391,536	154,614	1,432,536	167,786	2,148,718	
				2010	1,197	417,210	99,651	1,286,080	191,050	1,995,188	
	産業廃棄物		kg	2009	861	585,646	185,708	675,836	33,034	1,481,085	
				2010	1,109	829,742	171,167	684,292	47,712	1,734,022	
	リサイクル量		kg	2009	971	190,788	87,683	49,440	6,374	335,256	
				2010	1,936	714,484	99,685	74,817	4,198	895,120	
コピー用紙			kg	2009	8,221	56,229	78,504	27,215	18,000	188,169	
				2010	8,668	71,260	48,130	22,992	19,957	171,007	

※バンダイナムコグループでは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、上記一覧の*印の項目によりCO₂排出量を算定しています。

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

コーポレート・ガバナンス



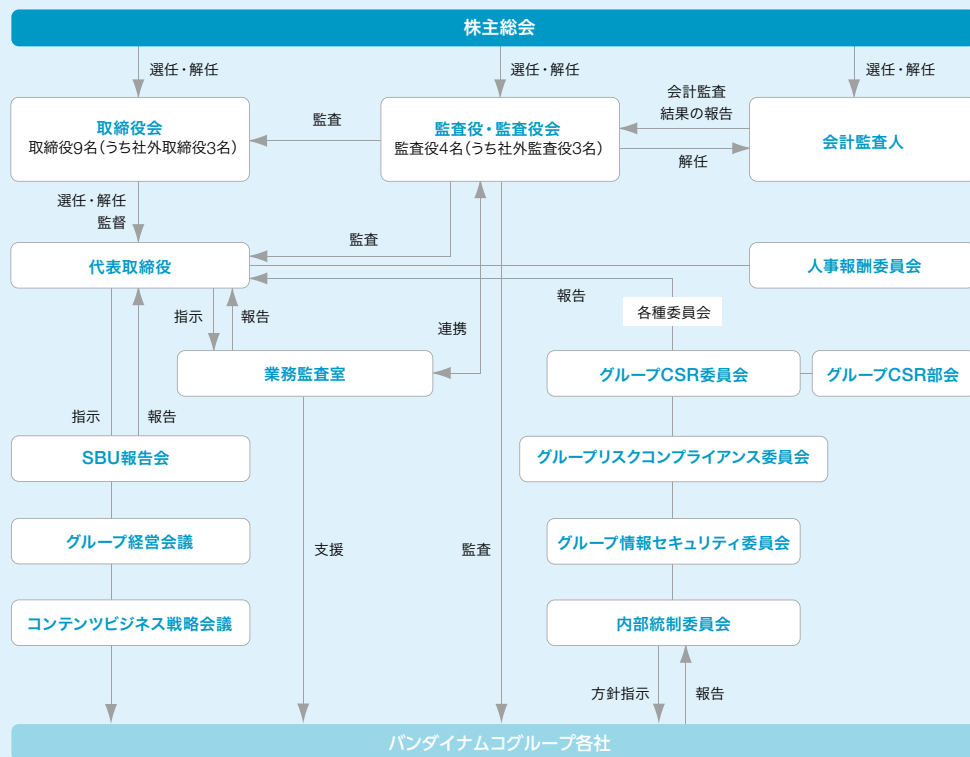
方針・考え方

当社は、企業活動を支えるあらゆるステークホルダーの利益を最重視しており、長期的、継続的な企業価値の最大化を実現するうえで、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題であると認識しています。社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指し、経営の健全性・透明性・効率性を高めるとともに、スピーディな情報開示を可能とするコーポレート・ガバナンス体制を構築していきます。



コーポレート・ガバナンス体制

2011年6月20日現在、当社の取締役は9名で構成されており、内3名は社外取締役として、経営の監督機能の強化に努めております。また経営環境の変化に迅速に対応するとともに、取締役の責任をより一層明確化することを目的に、取締役の任期を1年内としています。



コンプライアンス



方針・考え方

バンダイナムコグループは、「世界で最も期待されるエンターテインメント企業グループ」に求められる、コンプライアンスに関する考え方を明確化し、グループ企業への周知徹底を図っています。すべての国・地域の法律を遵守し、公正な競争のもとで利潤を追求すること、企業活動を通じて広く社会に貢献することが企業の重要な使命であるとの認識に立ち、バンダイナムコグループでは2007年4月に「バンダイナムコグループ コンプライアンス憲章」を制定し、これに基づき「バンダイナムコグループ コンプライアンス宣言」を行いました。



コンプライアンス意識の醸成

バンダイナムコグループでは、グループすべての役員および社員が業務遂行において遵守すべき8項目を掲げた「バンダイナムコグループ コンプライアンス憲章」を制定、同憲章をグループ全社で日々実践するため、その手引書となる「バンダイナムコグループ コンプライアンスBOOK」を作成し、グループすべての役員および社員に配布しています。2010年度は、グループすべての役員・社員を対象に、「バンダイナムコグループ コンプライアンスBOOK」に基づくeラーニングを2回、コンプライアンスに対する意識調査を1回実施し、延べ12,000名が受講しました。また、グループ各社において、各項目に特化した独自のコンプライアンス研修を実施しました。今後も、コンプライアンス意識の醸成とコンプライアンス体制のさらなる強化のため、定期的を実施していきます。



リスクマネジメント

バンダイナムコグループでは、健全な事業活動の継続におけるリスクマネジメントの重要性を認識し、グループリスクコンプライアンス規程を制定し、役員、社員一人ひとりが危機発生時に取るべき行動の指針を示しています。また、バンダイナムコホールディングス社長を委員長とするグループリスクコンプライアンス委員会を設置し、リスクの把握、該当危機発生時の未然防止に努めるとともに、危機発生時に迅速な対応がとれる体制の整備に努めています。さらに、グループ各社において法令違反が発生したことが確認された場合には、グループリスクコンプライアンス規程に基づき、各社のコンプライアンス委員会からグループリスクコンプライアンス委員会に報告を行います。今後も、社会の動向などを的確に把握し、企業経営をめぐる多様なリスクに迅速・適切に対応できるよう、リスクマネジメント体制の強化を図っていきます。



内部通報制度の整備・運用

バンダイナムコグループ各社では、それぞれ社内規程を制定し内部通報制度を整備・運用しています。社員が法令違反を発見した場合、上司に相談するか、あるいは内部通報制度（ホットライン）を通じて代表取締役、社外顧問弁護士、社内相談窓口、監査役のいずれかに報告することを規定しています。公益通報者保護法などに基づき、通報を行ったことにより不利益を受けることがないよう対応を図っています。内部通報制度により、法令違反の発生が明らかになった場合、各社のコンプライアンス規程に基づき、事案に応じて適切な対応を行います。